

ハイルメック

h a i l m e c k

今の私に似合う
眼鏡の選び方

食べ方のひと工夫で
腸を整えて、
血管と脳を元気に!



10
2022

五木寛之さん 戸田恵子さん

女性のがん死因1位、検診控えが診断の遅れに 大腸がんから身を守りましょう

コロナ禍で医療のひっ迫が伝えられる中、がん検診を見送っているという人が少なくありません。この「検診控え」が、がんの発見や治療の遅れにつながり、特に女性のがん死因1位である大腸がんでは深刻な問題になっています。

2020年のがん検診受診率

種類	2018年比	2019年比
大腸がん	68.4%	68.8%
乳がん	70.0%	70.3%
子宮頸がん	74.6%	75.1%

出典：日本対がん協会

コロナ禍前後でのがん診断数の比較



出典：日本対がん協会

左の表をご覧ください。がん検診の受診率は、コロナ禍前と比べて、2020年には大きく減少し、特に大腸がんでは7割以下に。また新たにがんと診断された件数も減少しています（グラフ参照）。

「コロナの流行後、多くの医療機関でがんの手術件数が減ったという調査結果も出ています。がん検診を受ける人が減ったことで、がんの発見数が減り、手術数も減るとい

う連鎖が起きている可能性があります。ありませぬ」と話すのは、内視鏡専門医で藤井隆広クリニック院長の藤井隆広さん。

がんの中でも女性の死亡数が最も多い大腸がんは、便潜血検査などの検診によって無症状のうちに発見できるしくみが整っています。検診期間があくと早期発見の機会を逃してしまいます。

「血便が出て『痔のせい』と自己診断で終わらせてしま

う人がいますが、がんの可能性もあります。40歳以上なら年に1回、便潜血検査を受けてほしい。ただし便潜血検査では、進行がんの1〜2割、早期がんの5〜7割が見逃される可能性があるため、一度は大腸内視鏡検査を受けることをおすすめします。内視鏡検査は精度が高く、見つかった病変をその場で痛みなく切除することも可能です。一回でも内視鏡検査を受けたことのある人は大腸がんの死亡率が大幅に減少することもわかっています。検査を受ける医療機関を選ぶ際は「拡大内視鏡」を保有しているかどうかポイント。内視鏡検査の技術・精度の目安になります」

「早めの検査で身を守りましょう。」

藤井隆広クリニック院長

藤井隆広さん

ふじい・たかひろ

内視鏡専門医。1983(昭和58)年、金沢医科大学卒業。秋田赤十字病院、国立がんセンター東病院、国立がんセンター中央病院を経て、2003年より現職。